

日14-111 (ショートコメント)

「まほろ駅前狂騒曲」 ★★

2014 (平成26) 年9月4日鑑賞<GAGA試写室>

監督：大森立嗣

脚本：大森立嗣、黒住光

原作：三浦しをん『まほろ駅前狂騒曲』（文藝春秋刊）

多田啓介／瑛太

行天春彦／松田龍平

星良一（裏組織のボス、まほろギャング）／高良健吾

柏木亜沙子（洋食レストラン「キッチンまほろ」のオーナー）／真木よう子

三峯凧子（行天の元妻）／本上まなみ

曾根田菊子／奈良岡朋子

飯島幸三／新井浩文

田村由良（小学生）／横山幸汰

三峯はる（行天の娘）／岩崎未来

西島さき／市川実和子

岡（多田便利軒常連客）／鷹赤兒

シンちゃん（薬売人）／松尾スズキ

山田（弁当屋・囲炉裏屋亭主）／大森南朋

早坂刑事（まほろ署刑事）／岸部一徳

吉村刑事（まほろ署刑事）／三浦誠己

澤田刑事（まほろ署刑事）／古川雄輝

小林（行天の過去の秘密を握るキーパーソン）／永瀬正敏

2014年・日本映画・101分

配給／東京テアトル、リトルモア

◆瑛太×松田龍平のコンビが「売り」の「まほろ駅前」シリーズの第1作は、2011年の映画『まほろ駅前多田便利軒』。その続編は、2012年のテレビドラマ『まほろ駅前番外地』。そして、第3弾が本作らしい。私は「まほろ駅前」シリーズの名前は知っていたが、瑛太にも松田龍平にも特段興味がない。そのうえ、最近の邦画の原作モノはつまらないものが多いので、全然気が向かなかったが、たまたま時間が空いたので試写室へ。しかし、ハッキリ言って時間の無駄だった。

◆若い女の子には、瑛太と松田龍平はイケメン・コンビとして人気で、本作は是非観てみたい映画らしい。しかし、65才の私に言わせると、まほろ駅前で便利屋を大体まじめにやっている多田啓介（瑛太）の方はまだまだが、そもそも30才前後のいい大人のくせして、行天春彦（松田龍平）の生き方は一体ナニ？そのうえ、そもそもこの2人のまどろっこしい喋り方が気にいらぬ。さらに、年から年中、タバコを吸っている姿も気にいらぬ。

これは、半分以上若者に対する年寄りのひがみなのかもしれないが、それでも気に入らないものは仕方ない。さらに、本作に登場してくる岡（鷹赤兒）のようなクソじいさんのバカバカしさを見ると、これにもうんざり・・・。

◆「まほろ駅前」シリーズは三浦しをんの原作。三浦しをんの『舟を編む』を原作とした映画『舟を編む』は2014年の第37回日本アカデミー賞で最優秀作品賞・最優秀監督賞など計6部門を受賞したが、私には全然面白くなく、星3つだったが、それは本作も同じだ。昔の『悪名』シリーズにみる勝新太郎扮する朝吉親分と、田宮二郎扮するモートルの貞のコンビは面白かったが、「まほろ駅前」シリーズにみる多田と行天のコンビの一体ナニが面白いの？

◆少子高齢化が進み、晩婚化が進み、恋の告白さえ口々にできない若者が増えている今だからこそ、こんな中途半端な若者の生き方が小説となり、若者の人気になるのかもしれない。しかし、団塊世代の65才のじいさんには、この手の映画はちょっとムリなことを実感。「まほろ駅前」シリーズの鑑賞は、本作が最初で最後になること間違いないだろう。

2014 (平成26) 年 9月 5日記